

カルメル

霊性センターニュース



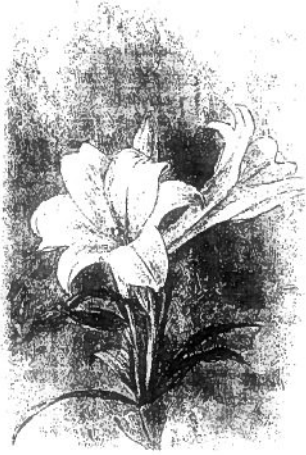
2015年12月

315号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	22
名古屋	26
北陸	27
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二巻

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

4 十字架を避けることはできない

ある時は神があなたから遠ざかり、ある時は隣人から苦しめられ、また、しばしば自分自身の重荷を感じる。その苦しみをのがれる薬、荷を軽くする慰めを見つけれず、神のみ旨の時まで忍ばなければならない。あなたが何の慰めもなく、患難によってさらに謙虚になることを、神は望まれる。キリストの苦しみに似た苦しみを忍ばなければならなかった人よりも、キリストの受難を理解し得る者はない。

だから十字架はつねに供えられていて、どこでもあなたを待っている。あなたはどこに逃げても、それからは逃げられない。あなたはどこへ行っても、自分自身と一緒にあり、どこにもあなた自身を身いだすからである。上にも下にも、外にも内にも、どこでも十字架を見いだすであろう。もしあなたが、心の平和をもって、永遠の冠を受けたいと思うなら、どこに行っても忍耐しなければならない。



いつくしみの特別聖年を迎えて

— 12月 —

皆さんに

恵みといつくしみ

そして 平和があるように

いつくしみの特別聖年にあたって
～教皇フランシスコ～

教皇フランシスコは12月8日無原罪のマリアの祝日から翌年11月の「王であるキリスト」の主日までを「いつくしみの特別聖年」とされました。「いつくしみの特別聖年」を交付したのは、さまざまな進歩と問題をはらむ現代社会に生きるわたくしたちがおん父のいつくしみを示す効果的なしるしとなるためだと教皇はいわれます。

イエス・キリストはおん父のいつくしみのみ顔です。キリスト者の信仰の神秘は、ひと言でいえばこの表現に尽きる気がします。いつくしみは生きたもの、見えるものとなり、ナザレのイエスのうちに頂点に達しました。*

神のいつくしみは、イエスの言葉と行い、そして全人格を通して、わたしたちに明らかにされました。日々の生活の中でこの「神のいつくしみ」のしるしとなることができますように、主のご降誕にあたってを心からお祈りいたします。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」
教皇フランシスコ、カトリック中央協議会出版



人を赦す (25)

くのり 彰

キリスト教のもっとも重要な徳の一つは、「謙遜」であると思われる。前回のたとえ話（ルカ 18・9-14）では、「謙遜」とその反対の「傲慢」がテーマになっていた。自分が正しい人間だと思う時、人は「傲慢」にとらわれ、他者を見下し、裁いていく。逆に、自分が罪人であり、正しい人間ではないと自覚する時、人を裁くどころではなく、神の前に跪き、ひたすら罪の赦しを乞わざるを得ない。

前者においては、「救い主」キリストは基本的に必要ではなく、罪を贖ってもらわなくてもよい。後者においてのみ、キリストはキリストとして、すなわち「救い主」として立ち現れる。自分ではどうにもできない傾き、弱さ、あさましさ、醜さが自覚されるからである。

医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。（マコ 2・17）

この場合、「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」という言葉は、二つの意味で捉えることができだろう。一つは、正しい人イコール「ファリサイ派の律法学者」、罪人イコール「罪人や徴税人」の意味。もう一つは、正しい人はだれもない、すべての人は罪人だという主張である。この場合、単にこの逸話に登場するファリサイ派の律法学者にとどまらず、自分を正しい人とするすべての人に対し、回心を促す言葉として取ることができる。「あなたも罪人であることを自覚しないならば、キリストの招きに、救いに与ることができないよ」と。

ここで区別しておくべきは、「根本的回心」のレベルと「日々の生活での回心」のレベルの相違であろう。前者は、自分が根本的に罪深い人間であることの自覚であり、すでに述べた原罪の自覚と言うべきものである。これに対し、後者は、毎日の言葉や行いにおける様々な罪（原罪の残滓が引き起こす無数の罪）の自覚であり、このために教会では赦しの秘跡が準備されている。しかし、前者の回心がないか希薄であれば、後者の回心はいわゆる表面的なものとなり、キリスト教は表面的な言動所作の是非を問題にする単なる道徳宗教となり下がってしまう可能性が大である。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (97)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

さあ、眠りに行きましょう！ (2)

「神父様、もう眠りに行きましょう。もう夜も遅いので、夜気が体にさわります。」

彼（訳注：十字架の聖ヨハネ）は、私にこう答えました。

「そうですね、行きましょう。神父様もとても眠たいというのが分かりましたから」。

この天空や星の探検が、十字架のヨハネ修士によって、どうして次のような賛歌となったかについては、言うまでもないでしょう。

おお、愛するかたの手によって植えられた

森よ、茂みよ、

おお、緑の牧場よ、

花々でちりばめられた牧場よ

教えてください、

愛する方があなたたちの間を通って行かれたかを

第三と第四行目（訳注：「牧場」のこと。ヨハネ自身が以下の参照箇所です）は、天空や星などを指しているのです（『霊の賛歌』第四の歌、4～6節参照）。



待降節 第2主日 みことばのひびき (ルカ3:1~6)

待降節(アドベント)は、「私たちと共におられる神」インマヌエルの到来を告げる季節です。アドベントは、人間となられ、私たちも他者のために生きるべきであることをお手本によって示された神をお迎えする準備の時です。アドベントは待つということの意味します。私たちは、愛している人を待ち、その人に会いたいと望みます。

本日の福音は、「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。」との洗礼者ヨハネの言葉を示しています。彼は、「主の道を整えなさい」と叫んでいます。彼の言葉は彼が直接話しかけた人々に対すると同様に私たちにも向けられています。彼は「罪の赦しの為に悔い改めの洗礼を宣べ伝えに来た」とルカは言っています。ここに三つの密接に結び付いている言葉があります。それは、洗礼、悔い改め、赦しです。

洗礼はイエスとの生活に入るためへの呼びかけであり、全ての汚れからの清めへの呼びかけです。過去の罪を完全に洗い流すことを希望してヨルダン川の水に浸り、それを通して神との和解を表明する象徴的な行為です。「悔い改め」は罪の赦しであり、回心として理解されています。これは単に過去の罪を悲しむことなく、神、及び他者との関係の見方に対して、完全で、そして根本的な心の変化を意味します。これは根本的で真の心の刷新と転換を要求します。これは神の意志に密着している新しい生き方を意味しています。この回心、言い換えれば転換は、罪の赦しをもたらします。赦しは罪と悪の連鎖からの解放を意味します。赦しは重荷を下ろすこととして考えられます。赦しは神、そして他者との完全な和解、癒し、全てを含みます。

福音は、私たちの役割が洗礼者ヨハネと同じであることを思い出させてくれます。彼と同様に私たちもそれぞれキリストの霊を伝え、キリストの希望、愛、自由、他者への平和のメッセージを伝える使命を持っています。人々が谷を満たし、でこぼこの道をより平らにするように手助けをする使命があります。確信と励ましの言葉は、驚くべきことをもたらします。自然で快活な性格はキリスト者の喜びの証しとなります。

クリスマスは、この世に与えられる神の憐れみという最大の贈りものを記念する日です。この祭日には、感謝と悔い改めのうちに神に向かい、溢れるばかりの憐れみを体験するように招かれています。キリストは神の救いをもたらしに私たちのところに来られます。私たちは天の御父に感謝して、来る年信仰のうちに生きる望みを持つことができます。主が過去に来て下さったことを記念するクリスマスの日をお祝いする準備をしましょう。お互いに喜びを持って常に祈りましょう。聖霊の道具である福音への参与を通して、この世の終わりに主が最後に来られる前に、聖霊がキリストのよい働きを完成してくださることを確信しましょう。

(Sr. Paulina)

待降節 第4主日 (ルカ1:39-44)

今日の朗読は、わたしたちをクリスマスー神の幼子、主のご降誕ーの喜びにより一層近づけます。静けさのうちに、大きな期待を持って今起ろうとしている栄光に輝く出来事を待っています。三つの朗読の各々は、この偉大な神秘を理解しやすいように、また十分に準備出来るように異なった局面を取り上げています。神が選ばれた人たちによって成就されていく神のご計画を目の当たりにするときわたしたちは神には不可能なことがないことを理解します。この神の約束は本当に壮大で素晴らしく、もうすぐ時が満ち成就しようとしています。おそらく地球終わりの時にもこの神の知恵（神の約束）は届いて、平和が国々の間に行き渡るでしょう。

福音は、マリアのエリザベトご訪問というわくわくする驚きと喜びいっぱいのお話です。神のお告げを受託し、聖霊によって長い間待ち望まれていた救い主を宿されたマリアは、神の特別な計らいによる従姉エリザベトの懐妊を知り、すぐに遠い山里にエリザベトを訪ねます。ここで神の恵みを宿した信仰に生きる二人の女性が出会い、喜びを分かち合います。マリアの挨拶をエリザベトが聞いたときその胎の子ヨハネは喜びおどりました。このとき年長のエリザベトは乙女マリアの前に身をかがめ聖霊に満たされて声高らかに褒め称えました。“あなたは女の中で祝福された方です”と。どのような意味でしょうか。神への完全な信頼に生きる人は、神の望みを生きることを願い、常にその心は神に開かれています。聖書は“祝福された”ということばを“幸いな”と言う意味に用いています。幸せは神との交わりによって得られる喜びです。マリアは生涯これを経験していました。マリアは祝福された、幸いな方でした。何故ならマリアのうちに神の救いの約束が成就され、マリアはこのことを真に、心から信じた方でしたから。

“あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました”というエリザベトのことばは、マリアが神の自分のうちに行われた偉大な神秘を確信する時となりました。大天使ガブリエルが神のお告げを伝えたとき、マリアは神の恵みによってこの真理を信じました。これは前代未聞の偉大な出来事！大きな驚き！これ以上の神秘はありません。エリザベトは彼女の中の聖霊の助けによってこの神秘を表現することができましたが、現実起っていることを真実に理解してはいませんでした。神、聖霊によってのみマリアの様にこの神秘を悟ることが出来るのです。毎年キリストがわたしたちの生活の中に、また心の中に来て下さるこの時期に、わたしたちは大きな喜びの中でこの神秘を黙想し思い巡らします。愛そのものである神がわたしたち一人ひとりをどれほど大事な存在として受け留め、愛しておられるか、聖霊の助けによって確認し、確信し、深い感謝のうちに真の“幸いな者”としていただけますように！

(Sr. Paulina)

巨大な仏像や巨大な観音像が日本各地に点在していて、その数は思いのほかずっと多いのだという主旨のテレビ番組を、見るともなしに眺めていたのですが、話が進むにつれて、なぜか関心を引き起こされ、引き込まれてしまい、いつしか思いを深く深くと募らせることとなりました。

次々と紹介される仏像の数々は、確かにびっくりする大きさでそびえ立ち、私は実際に見たものはないのですが、いったいなぜこんなところにこんなものがと、首をかしげるしかないような映像に、唾然とするばかりです。

自動車で走っていると、突然に道路を覆うかのように巨大な観音像が立ちほだかり、また、住宅街の真ん中に、全く不釣り合いな不似合いな大仏が、どっかりと鎮座ましましていて、マンションの窓を開けると、目の前いっぱい大仏の背中が視界をふさぐという光景に、住んでいる人は毎日どんな気持ちで窓を開けるのだろうと案じます。

しかし、これ等巨大な仏像の下に住み、楽を与えてくださり、苦を抜いてくださるといふ慈悲のまなざしに見守られながら、手を合わせて日常をおくる多くの人々がいるのです。

テレビでは、あえて奇をてらうかの映像を集めてあったのですが、私たちの生活の場には、こうした慈悲のまなざしはあちらこちらになじみ深く存在します。

赤いよだれかけのお地蔵様を見かけたりすると、私もふと足をとめます。お地蔵さまや小さな鳥居のお稲荷さんなど、道端はおろかビルの中にもビルの屋上にも祀られているようです。私たちがそれを必要とするからだと思います。

更に気をとめてみれば、これは日本各地のことだけでなく、ともすれば世界に共通のことなのかもしれません。

古い話になりますが、「未完成交響楽」というシュューベルトを主人公とした映画がありました。私は昔々少女時代に観て記憶定かではないのですが、主人公傷心のラストシーンだけは今でも覚えています。アヴェマリアの旋律が流れる中、野の道に立つ小さな木製の巣箱のような祠が映され、(キリスト像かマリア像かであったと思うのですが)それはそれは情感深く印象的で、今に思えば正に慈悲のまなざしというべきものでした。

また今、心の底から静かに立ち上ってくる思い出があります。かつてお教をいただいていた、今は亡き神父さまがお話くださったのですが、ヨーロッパの(場所の名前は失念してしまいました)小高い丘の上に聖人方の像が並んでいて、それは目を閉じたり天を仰いだりではなく、目をかっと見開いて、眼下の街全部をしっかりと見下ろしているというのです。

神を求め神を探し、この世を離脱し、遙かな行程を歩まれた聖人方は、つまるところスタートラインであるここにおられるのだというお話でした。父である神さまが働いておられる わたしも働く その通りなのだと深くうなずき、私はその時何か途方もなく大きなものを心に刻んだのです。神父さまの置き土産と思い大事にしています。

その後或る講座で、仏教の往相還相について聴く機会があり、そうか仏教もそうなのかと大変に感銘を受けました。悟りを得て極楽浄土へ行き仏となった者は、再びこの世に還ってきて、人々の救済のために働くとの謂いです。

仏教もキリスト教も同じ考えかななどというよりは、これはもっともっと深くとても尊い真理であるのだと思いました。

神に出会いこの身の罪深さを知らされ、死んでいるいのちに、水と霊による新しいいのちを恵まれて、シユーブ、顔を神の方へと向け直し、メタノイア、心を180度めぐらして、神に会いたい、御心に添いたいと固く決意し、ひたすら信じ、ひたすら望み、ひたすら愛し……。主を仰ぎみて光を受け、荒野の孤独を果てなく歩み……。絶え間ない祈りと、涙の痛悔と、堅忍と、自己放棄と……。

しかし、魂は知ります。往き着いてこそ知るので。神と会いたいというこの死に物狂いの望み、努力、精進も、遂には我欲でしかなかったことを。自分のいのちを得るものでしかなかったことを。

今こそほんとうの無と帰して、もはや献身の他にすべはなく、「父よ わたしの霊をあなたのみ手にゆだねます」の餌となって身を投じる。思いもよらなかったもうひとたびの回心。そうして与えられた新しい瞳に映るのは、この世なのです。往相還相とは、あちらへ往ったりこちらへ還ったりではなく、きっとひとつのことではないかと思っています。想像したり理解したりは及ばないのですが、それは「すべては恵み」ということではないでしょうか。

12月、日本各地には静かにまたは賑わしく、さまざまにクリスマスの灯がともるでしょう。幼子イエズスは何ひとつ頓着せず、御父の思し召しのままにこの世に清らかに降誕されます。

私たちは、世の終わりまで共にいてくださる主の愛と慈しみの内に、いかなる状況にあらうとも、今日この日を生きてゆきます。

いつの日か、顔と顔を合わせて相まみえるその時を、心に待ち望みながら。

いのちの言葉 12月

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ

(マルコ1・3)

このみ言葉は私に向けて語られた言葉です。「来られる主」をお迎えする準備が必要な私に向けられた言葉です。「主イエスよ、来てください」と私は日々祈り、主は「わたしはすぐに来る」とお答えになります。(ヨハネの黙示録 22, 17・20)

戸口に立って家の中に入れてほしいと戸をたたかれる(ヨハネの黙示録 3, 20) 主を、私の生活から閉め出すことなどできません。

洗礼者ヨハネは、自分の犯した罪を悔いて回心し以前の生き方を改めて「来られる主をお迎えせよ」と当時のイスラエルの民に語りました。彼は、「救い主の到来」が差し迫っていると確信していました。そして、救い主の到来を幾世期にもわたり待ち望むイスラエルの民が、果たして、メシアを認識し、その言葉に耳を傾け、彼に従うことができるだろうか?。「救い主」を迎える準備が急務であることを知った彼は、民に悔い改めるよう強く求めました。

主の道を^{ととの}整え、その^{みちすじ}道筋をまっすぐにせよ(マルコ1,3)

イエスは毎日、私の心の戸をたたかれます。ですからこのみ言葉は私に向けられたものです。洗礼者ヨハネの時代のイスラエルの民と同様に、私にとっても、

「救い主」である主を認めることは容易なことではありません。ナザレの^{よび}寂れた村から来た貧しい大工であったイエスは、誰もが期待していた「救い主」のイメージとはほど遠い人でした。今日であれば全てを失った難民、もしくは失業者、あるいは^{ことうし}雇用主やクラスメート、自分の家族の者かもしれません。主の輝かしいみ顔がいつもそこにあるわけではない人、むしろ、全く見えない人かもしれません。主は「かすかな声」で、許すこと、お互いの間に信頼と友情を築くこと、そして、福音に反する生き方をしないように私たちを招かれます。でも、「かすかな声」は、憎しみを駆り立て、自分の利益を求め、腐敗に手を染めるようにそそのかす他の多くの声によってかき消されてしまうこともしばしばです。

今月のみ言葉は、曲がりくねる歩行不可能な「道」を例にあげています。それは、私たちの日々の生活の中に「神をお迎えする」のを阻む障害物があることを意味しているでしょう。心の中に巢食う利己心、もろもろの罪を考えたらきりがないでしょう。それらは私たちの目をふさぎ神の存在を見えなくし、その声も聞こえなくします。もし自分の胸に手をあてるなら、イエスとの出会いやその声を聞くこと、兄弟の中におられるイエスを見ることの妨げとなっているものが何で

あるか自ずと気づくでしょう。ですから、このみ言葉はまさに今の私に向けられた言葉なのです。

「主の道を^{ととの}整え、その道筋^{みちすじ}をまっすぐにせよ」(マルコ 1,3)

もし、私の裁きによって相手をとがめ互いに口も利かない関係にあるなら、その道筋をまっすぐにし相手を理解し、愛し、仕えるように努めてみましょう。または、自分の中に友情を裏切ったり、暴力的になったり、法律違反を犯すような面があるなら心を改め、その道筋をまっすぐにしましょう。たとえ相手から不当な扱いを受けたとしても、むしろ耐え忍び相手との関係を大切にする人となりましょう。自分の周りに兄弟愛が育っていくよう積極的に働きかける人となりましょう。

確かに今月のみ言葉は、強く厳しい言葉です。しかし、このみ言葉はまた、私たちの生活を一新し自由に解放してくれるものです。さらにイエスとの出会いに心を開き、私のうちにイエスご自身が生きるようにしてくれ、私の中でイエスが行い、愛するようになってくれます。

もしこのみ言葉をよく生きるなら、私たちの間に、キリスト者共同体や家族の間、そして私たちが属する活動グループの間に、もっと素晴らしいことが起こります。それは、イエスがお生まれになるからです。事実、洗礼者ヨハネはイスラエルの民に、「神が来られ、私たちの間に住まわれる」(ヨハネ 1, 14)と語っています。

では、みんなで助け合いながらお互いの「関係」という道筋をまっすぐにしましょう。正しくない関係があるなら修復するよう努めながら、私たちも今年から始まる「いつくしみの聖年」を良く生きるように努めたいと思います。こうして、私たちも皆と一緒に、神様をふさわしくお迎えできる家、家族となれるでしょう。

今年の御降誕の日、イエスは開かれた道を私たちの中に見出し、私たちの間に留まって下さることでしょう。

ファビオ・チャルディ神父

*2015年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

糸巻き棒からペンへ(4)

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OCD



非常に異なった現実が一つとなって調和していることが、彼女を特に魅力的な人としています。さらに、彼女は非常に感じのよい女性でした。病気や仕事や侮辱や軽蔑が、彼女の楽観主義をかき消してしまうようなことはありませんでした。

愛想のよい性格

目覚めた知性と大胆な意志と開かれた打ち解けた性格を具えた女性の前に、私たちは立っています。彼女の才能と感じのよさによって、彼女は両親のお気に入りの娘となり、子供時代のあらゆる遊びのリーダーとなりました。彼女自身が、「主が私に与えてくださった自然的な恵みは、人が言うには、たくさんあった」(『自叙伝』1・9) ことを認めています。同時代人のプリフィカシオンのペドロ神父は、こう書いています。「この誉れ高い修母との会話で、一つのことが私を驚かせました。それは、三時間、四時間、話し続けたとしても、その会話は非常に快く、言葉は非常に崇高で、口は非常な喜びで満たされていたので、決して疲れず、だれも彼女のもとから立ち去ることができなかったということです」。サン・ホセのマリア修女の証言も、同じようなものです。「修母を見ることや、お話を聞くことは、大きな慰めをもたらしました。というのも、修母はとてもおだやかで、とても優雅だったからです」。ルイス・デ・レオン修士は、こう付け加えています。「彼女と話をして、彼女に夢中にならない人は、だれもいなかった」。

聖テレジアが創立した修道院を訪問すると、多くの修道院で、彼女のものであった特別な遺品をいくつも保存しているのに驚かされます。カスタネットやタンバリンやフルートや他の楽器です。修道院の祝祭日を活気づけるために、テレジアは、歌や詩を作ったり、演奏したりするのが好きだったからです。

ある時、聖女はソリアの修道院にいました。共同体は、院長としてキリストのカタリナ修母を選出しました。ある修道女は、母なる創立者をどのように思うかと、ある修練者にたずねました。その修練女は、思ったほどテレジアは、聖女ではないと思うと、単純に答えました。そのわけは、彼女がよく笑うからだということでした。

九里 彰訳

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年10月17日

カルメル会総長から全カルメルへ

カルメルの親愛なる兄弟姉妹の皆さま、

私は、今日皆さまに手紙を書き、主が私たちに与えてくださっている恵みをぜひ皆さまと分かち合いたいと思います。長上として、至らないながらこの奉仕に呼ばれた以上、私は“主のいつくしみを讃える”ために、皆さまとともにひとときを過ごしたいと望みます。

10月15日(木)に、私たちの聖なる母聖テレジアの生誕500周年記念祭が閉幕いたしました。

その日、私は、聖女の祭日を祝い、主に、またイエスの聖テレジアによって創立された家族に感謝と喜びを表し、聖女の足跡を私たちとともに歩き続けようとする多くの人々とともにアビラに滞在しておりました。この祝典は世界中でなされました。すべての大陸で、テレジアの賜物に対し、賛美の歌が捧げられました。聖女は、人となった御子の内に示された神の慈しみ深い愛へと至る、私たちが歩むべき小道を教えるために、「私たち皆のために生まれた」のです。

この祭日を祝う最中に、アフリカ地区の総長顧問のジョージ・タンバラ神父がマラウィのゾンバ教区の司教に選出されたとのニュースが入りました。私たちは、この兄弟を地方教会の牧者として差し出すことに誇りと喜びを感じていますが、会の中核である総長顧問会から彼がいなくなることに、心の中で淋しさも感じています。

明日私たちは、私たちは、教皇様とともに幼きイエズスの聖テレジアのご両親、ルイとゼリー・マルタン夫妻の列聖式をお祝いします。彼らの素朴な、しかし英雄的な日常生活から、私たちはどれほど多くを学ぶことができ、また学ぶべきでしょうか。それは、自分自身や自分の要求や自分の利益や自分の権利を忘れて、人々を愛するという真のヒロイズムです。

これらの誉れある体験は、カルメル修道会の中核がほぼ毎日、マスコミから攻撃され公に傷つけられている時に、助けと慰めになります。イエスは福音で「この世の子らは、自分の仲間に対して光の子らよりも賢くふるまっている。」と警告していま

す。ですから、めいめい、職業倫理の判断基準に従って、仕事をさせましょう。この真実を知りたい人は、上級長上から聞くことができます。

これらの日々は、母聖テレジアのテキストを私に思い起こさせます。『創立史』27章21節の箇所です。「あちこちの修道院創立の際にも、よい意向からか、あるいは他の目的でか、ずいぶんひどい反対や悪口を私に浴びせる人がありました。ときには、それが本当にうれしかったのですが、どんな試練のときにもこれほどの喜びを覚えたことは決してありません。正直に申しますと、もしこれが他の場合でしたら、このとき私のうえに一度ふりかかった三つの試練のうちただ一つでも、ひどく私を苦しめたに違いありません。この喜びの主な理由は確か、被造物からこのように扱われるところからして、創り主は私にご満足でいらっしゃるに違いない、と思うことでした。自分の仕合せを、地上の物事や人々の賞賛に置こうとする人は、ほとんど利益を得られないばかりでなく、ひどい間違いを犯している、と私は心底そう思うのです。人の言うことなど今日と明日とでがらりと変わります。今褒めたことでも、すぐあとで悪く言う始末ですから。」

これこそ、聖テレジアがこの世の矛盾を感じ取り、生き抜いた方法です。神が聖女に託された仕事を果たす助けとなった力は、ここに 있습니다。聖女は、この世が苦難や失望と考えることを、喜びと慰めと捉えていったのです。母聖テレジアがこれらの経験を切り抜けたのと同じように、私たちも同じ経験を切り抜ける恵みを、主がくださいますように。

兄弟愛をもって

総長ザベリオ・カニストラ神父、OCD

Il Congresso ALACAR e la visita del P. Generale in America Centrale

In presenza dei Padri Saverio Cannistrà, Preposito Generale OCD e di Ferdinando Millán, Superiore Generale O.Carm, si è aperto martedì 27 ottobre a San Salvador il IV Congresso ALACAR (Associazione Latinoamericana dei Carmelitani), sul tema: "Teresa di Gesù: una finestra di speranza per l'America Latina".

I partecipanti sono stati oltre 130 (frati, religiose di vita attiva e laici associati) provenienti da 17 Paesi, in omaggio a Santa Teresa nella chiusura del V Centenario della sua nascita. Nell'arco di questa settimana sono previste nove conferenze, in cui Teresa sarà presentata da tre punti di vista: Teresa donna, Teresa profeta e Teresa mistica.

Il Congresso si innesta nel cammino che tutta la famiglia carmelitana sta facendo in America Latina, con l'obiettivo di favorire l'integrazione e condividere la ricchezza di entrambi gli Ordini che formano la ricca famiglia del Carmelo. Tali Congressi vengono celebrati con scadenza triennale. Siamo giunti alla quarta tappa di un itinerario iniziato nel 2006 a Lima (Perù) e proseguito a Villa de Leyva (Colombia) e Sao Paulo (Brasile).

Al termine del Congresso ALACAR (sabato 31 ottobre), P. Saverio e P. Javier Mena proseguiranno il viaggio in America Centrale con il seguente programma:

- domenica 1 e lunedì 2 novembre: Assemblea Generale della CICLA (Conferenza Interregionale dei Carmelitani Teresiani dell'America Latina): quest'assemblea viene celebrata una volta nel triennio e raduna tutti i Superiori Maggiori delle diverse circoscrizioni dell'America Latina, per verificare il cammino percorso e programmare i diversi impegni comuni a livello regionale o dell'America Latina;
- dal 3 al 5: visita fraterna in Guatemala;
- dal 5 al 6: visita fraterna in Honduras;
- dal 6 al 7: visita fraterna in Nicaragua;
- dall'8 al 10: visita fraterna in Costa Rica;
- dal 10 al 12: visita fraterna in Panama;
- 12 novembre: rientro a Roma (l'arrivo è previsto il giorno seguente).

「カルメル」
今日の霊性・秋号
四旬節講話特集号



2015 秋 No.358

カルメル 2015 特集号

「現代における預言者 聖テレジア」
—聖女のカルスマを次世代に伝える—

神が慈しまれた道 (7) 奥村 一郎 52

私には名前が二つあります
——命の声調に聴く (9) 森 みさ 46

西行と芭蕉の霊性
——命の声調に聴く (9) 田畑 邦治 39

歴代教皇の寸描 (2) 高橋 重幸 33

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (12)
——教会のために聖霊にとらえられて マリー・エウージェニス 編・訳 伊徒 信子 26

風に吹かれて (5) 知識と体験 原 造 23

エディット・シュタインとアピラの聖テレサがほざいたもの (2) 須沢 かおり 16

イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての考察 (3) 松田 浩一 9

修道生活の改革 (3) アピラの聖テレジアの理想 九里 彰 3

● 目次 ●

テレジアに学ぶ宣教の精神 今泉 健 53

二十一世紀のために生まれた聖テレジア 中川 博道 39

修道生活の改革者 聖テレジア 九里 彰 26

アピラの聖テレサの霊的母性 片山 はるひ 13

キリスト者一致に対するテレジア的預言 松田 浩一 2

◎ 目次 ◎

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～2016年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 日帰り黙想会 13時30分(※10時)～16時

[聖人たちを支えた神のことば] 福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2015年

12/3 (木)、12/18 (金)

2016年

1/15 (金)、1/28 (木)、2/12 (金)、2/25 (木)、3/11 (金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

※企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

2. 奉獻生活者のための黙想会

12月27日(日) 18時～2016年1月5日(火) 朝 福田正範神父

3. 青年黙想会(男女) 福田正範神父・カルメル会士

テーマ「キリスト者の奉獻」

11月13日(金) 16時～15日(日) 16時

4. 召命黙想会(男女)

~~9月25日(金) 16時～27日(日) 16時~~ (中止になりました)

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

1 1月 6日(金) 20時～ 8日(日) 16時 「いのりの道」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2015年12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

New! 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Eメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことは☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

* 企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 12月 3日(木) 午後1時30分～午後4時

12月18日(金) ”

2016年 1月15日(金) ”

1月28日(木) ”

2月12日(金) ”

2月25日(木) ”



お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

2015 年

降 誕 祭のミサに参加するための黙想

*日時：12月24日（木）夕食なし～25（金）朝食後午前10時まで

24日（木）は、後3時より入室出来ます。

講話は、ありません。

夜半ミサより日中ミサにかけて主イエス・キリストのご降誕を
黙想し、静修の時を過ごしましょう

費用：¥4000

*お問合せ、お申し込みは 上野毛聖テレジア修道院（黙想）

TEL. : 03-5706-7355・FAX.03-3704-1789

E-mail mokusou@carmel-monastery.jp

上野毛教会の降誕祭ミサの時間

12月24日（木）

子供とともに

17時～

夜半ミサ

20時～

〃

24時～

12月25日（金）

早朝ミサ

7時～

日中ミサ

10時半

〃

18時～



2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】	1月 9日 (土) ~10日	いつくしみの顔さがして.. 特別聖年を生きるために	中川博道神父
・ 1泊2日	4月16日 (土) ~17日	復活したイエスを捜しつづける私たち	中川博道神父
(午後5時~午後4時)	5月 6日 (金) ~ 8日	イエスいつくしみの愛のもとに留まる	中川博道神父
	9月10日 (土) ~11日	人生の実りを思いめぐらす	中川博道神父
【聖書深読黙想会】	1月 9日 (土)	7月 2日 (土)	中川博道神父
・ 1日	2月 6日 (土)	9月 10日 (土)	中川博道神父
	4月 9日 (土)	10月22日 (土)	中川博道神父
	5月14日 (土)		中川博道神父
	6月11日 (土)		中川博道神父
- 水曜の黙想	1月20日 (水)	主の慈しみは、新たになる	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)	2月24日 (水)	生きることの見直し	中川博道神父
	3月16日 (水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一神父
	4月20日 (水)	イエスと共に日々を振り返る	シスターロサ
	5月18日 (水)	神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト	松田浩一神父
	6月 8日 (水)	神のいつくしみとイエスの聖テレサ	松田浩一神父
	7月20日 (水)	神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ	松田浩一神父
	9月21日 (水)	神のいつくしみとエディット シュタイン	松田浩一神父
	10月19日 (水)	神に愛されている喜び	シスターロサ
	11月16日 (水)	いつくしみの御母、聖マリア	松田浩一神父
キリスト教霊の同伴	1月29日~30日 (土)	7月 8日~ 9日 (土)	松田浩一神父
午後8時~午後3時まで	2月19日~20日 (土)	9月 2日~ 3日 (土)	松田浩一神父
(金) 夕食なし	3月18日~19日 (土)	10月21日~22日 (土)	松田浩一神父
	4月22日~23日 (土)	11月11日~12日 (土)	松田浩一神父
	6月03日~04日 (土)	12月 2日~ 3日 (土)	松田浩一神父
- 四旬節の黙想	3月 5日~ 6日 (土)	問題性から脱出すること	中川博道神父
(午後5時~午後4時)			
- 待降節の黙想	12月10日 (土) ~11日 (日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博通神父
(午後5時~午後4時)			
- 聖テレーズの黙想	9月30日 (金) ~10月1日 (土)		伊従 師
(午後5時~午後4時)			
カルメル青年の集い	4月29日 (金)	11月23日 (水)	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)			
一般のためのカルメルの霊性セミナー	1月23日 (土)	キリストの神秘体の一致	松田浩一神父
(午前10時~午後4時)	2月 6日 (土) ~ 7日 (日)	カルメルの最初の隠修士の霊性	松田浩一神父
(午後5時~午後4時)	5月 2日 (月) ~ 5日 (木)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
		イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
	10月14日 (金) ~15日 (土)	イエスの聖テレサの霊性	松田浩一神父
	12月13日 (火) ~14日 (水)	十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父

奉献生活者の黙想
(午後5時～午前9時)

8月 2日 (火)～11日 (木)
8月15日 (月)～24日 (水)
12月27日 (火)～1月5日 (木)

中川博道神父
松田浩一神父
松田浩一神父

English Retreat
(10am to 4pm)

5月28日 (土)
11月26日 (土)

Come to me you broken hearted.
Maranatha-Come Lord Jesus

シスター-ロサ
シスター-ロサ

祭日のミサに参加するために

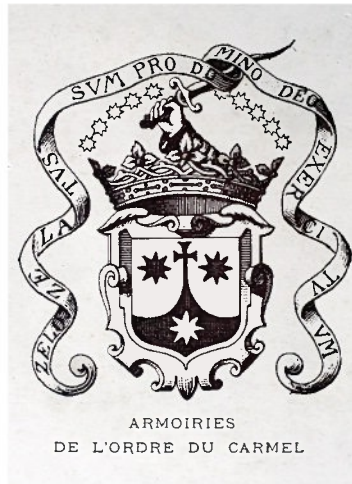
【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月31日(木)～4月3日(日) [講話なし、各食事つき]

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(土)～12月25日(日) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

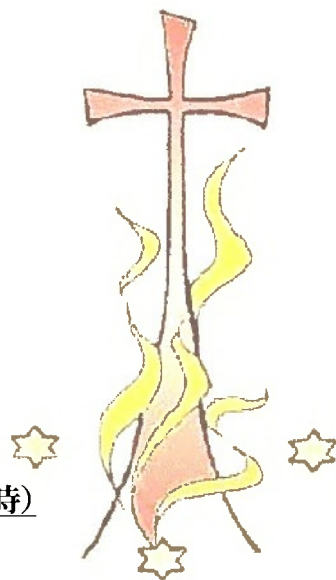
【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 1月29日(金)～30日(土)
2月19日(金)～20日(土)
3月18日(金)～19日(土)
6月 3日(金)～ 4日(土)
7月 8日(金)～ 9日(土)
9月 2日(金)～ 3日(土)
10月21日(金)～22日(土)
11月11日(金)～12日(土)
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

十字架の聖ヨハネの祭日ミサと講話のお誘い

十字架の聖ヨハネの神への愛の奉仕

2015年12月14日（月曜日）午前9：30～11：45

場所：カルメル修道会宇治修道院の聖堂

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：献金

交通：JR 奈良線六地藏駅・市営地下鉄東西線六地藏駅

徒歩 15 分・タクシー 5 分

京阪六地藏駅 徒歩 20 分・タクシー 7 分

お問い合わせ

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



《 名古屋一日静修 》



1. 日 時： 12月23日（水） カルメルの霊性を生きる③
「アピラの聖テレジア：自分を知ること」 九里 彰神父

2016年の年間テーマ「神のいつくしみに学ぶ ―特別聖年を迎えて―」
1月23日（土）：「いつくしみの特別聖年について」九里 彰神父
3月21日（月）： 伊従 信子 師
5月21日（土）： 松田 浩一 師
7月18日（月）： 講師未定
9月19日（月）： 今泉 健 師
11月23日（水）： 講師未定

場 所：カトリック日比野教会 信徒会館
（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分）

2. 参加費：1000円
3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
4. プログラム
10:00 導入の祈り（聖堂）
10:20 第一講話（信徒会館）
11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
12:00 昼食（信徒会館）
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
13:00 第二講話
14:00 念祷 ③
14:30 ミサ（聖堂）
15:30 茶話会（信徒会館）
16:00 終了の祈り
5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX/0568 - 62 - 5167
mail/seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26
「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

13：30～ 聖書朗読 短い講話

14：30～ ベネディクション 聖体顕示

15：30～ 聖体拝領

16：00～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

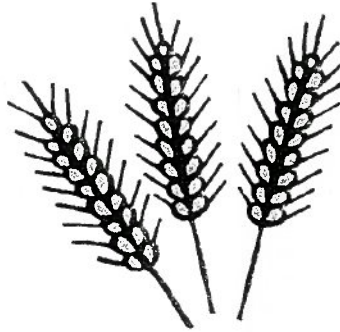
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

- K4 09/19 (土) -09/25 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/27 (火) -11/02 (月) 滋賀唐崎・ノートルダム
T2 11/17 (火) -11/23 (月) 兵庫西宮・トラピスチヌ
K5 12/12 (土) -12/18 (金) 東京・小金井・聖霊会

2016年予定

- N1 02/26 (金) -03/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
N2 05/07 (土) -05/13 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
K1 06/13 (月) -06/19 (日) 東京・小金井・聖霊会
K2 10/01 (土) -10/07 (金) 東京・小金井・聖霊会
N3 10/20 (木) -10/26 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 12/05 (月) -12/11 (日) 東京・小金井・聖霊会

真命山 2015年 — 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」



- 1月 8日 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に
適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150
- 2月 12日 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を
信じなさい（マルコ 1,15）詩編 51. 21
- 3月 12日 過越祭のハレルの詩編：113.117.136
- 4月 9日 復活祭の詩編：2.110.118
- 5月 14日 詩編 45.89（ルカ 2,46-55）
- 6月 11日 詩編 145.146.148
- 7月 9日 詩編 126.130
- 8月 休み
- 9月 10日 詩編 23
- 10月 8日 詩編 42
- 11月 12日 詩編 137.147.150
- 12月 10日 詩編 来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下(予定)の土曜日、
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。

冬学期: 12/5, 12/19

2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturräume 1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体。12月30日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、Kulturräume 1階聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。

・「水曜日ミサ後の黙想」18時～18時30分 上智大学内 Kulturräume 1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、12月30日は休み。

・「通う霊操」8月22日(土)～8月30日(日)18時～20時45分 上智大学内 Kulturräume 1階聖堂

・「黙想会」

11月28日(土)10時～29日(日)14時(上石神井)。

1泊2日。7,000円程度。事前申込み要。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内 Kulturräume 1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心

10月31日(土)20時20分～11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープン集い。
13時30分から。岐部ホール4階、404。

●クリスマス会

12月12日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404。
事前申し込み要。

●クリスマスのミサ

12月23日(水)14時～16時。上智大学内 Kulturräume 1階聖堂(80人限定)。

●クリスマスの黙想

12月25日(金)18時55分～20時40分。聖イグナチオ教会マリア中聖堂(予定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2015年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)

11/27 恵みとゆるしー 神の憐れみを受ける

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

12/04 愛の心ー キリスト教の本質

12/11 隣人愛ー 他人の内にイエスに出会う

12/12 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
パーティ、岐部ホール4階404.要申し込み)

12/18 希望を持つ勇氣ー 未来に向かって歩む

12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クル
トゥルハイム2階、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチ
オ教会 マリア中聖堂、予定)

01/08 霊の動きー 福音による生き方

01/15 秘跡と教会生活ー 毎日を支える信仰

01/22 神の言葉ー 神との日常的な対話と黙想
の仕方

01/29 結婚と独身ー 愛の道

02/05 信徒・司祭・修道者ー 誰もが召されている

02/12 仕事という人間の課題ー 社会と教会に寄
与して働く

02/19 人間の苦悩ー 恵とは何のためか

02/26 死ー その受け入れと克服

03/04 人生の完成ー 神の内に生きる

03/11 聖母マリアー 信じる者の原型

03/18 ●御受難と御復活の黙想(予定)

03/25 ○休み(聖金曜日)

03/27 ◆復活祭のミサ (14時、上智大学内クル
トゥルハイム2階、80人限定)

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[根本的態度]

11/28-29 ●黙想会(上石神井)

[日常生活]

12/01 家庭と独身生活——与えられた招きの発見

12/12 ■クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分
パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)

12/15 仕事と祝いー 能力の活性化と人生の実り

12/23 ■クリスマスのミサ(14時、上智大学内クル
トゥルハイム2F、80人限定)

12/25 ●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチ
オ教会マリア中聖堂、予定)

12/29 ○休み

01/05 困難と苦しみ——謙遜な自己奉獻と神への
信頼

01/19 教会生活とミサ——「キリストの体」の神秘

02/02 秘跡の恵みーたえざる刷新と神のいのちの
深まり

[信仰の実現]

02/16 祈りの本質と靈的読書——キリストとの心の
交流

03/01 創造的靈性——活動における観想

03/15 「聖徒の交わり」——信仰の内に支え合う

03/27 ■復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥ
ルハイム2F、80人限定)

03/29 ○休み

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです

東京

12月19日（土）「エマヌエル」
午後2時 ～ 午後5時30分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



京都

12月5日(土)、1月9日(土) 13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』伊従信子著
聖母文庫、聖母の騎士社
7章 神により頼む

12月8日(火)、1月12日(火) 13時半～15時半 河原町カトリック会館3階
* 『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士社 担当：伊従信子
* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半

12月12日(土)、**ご降誕を前にも祈る 11時半～16時ごろ** 京都NDV
* **昼食をご持参ください**

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525)

email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>  
**★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります**

| コース         | 日時<指導者>                       | 指導者  | 開催場所                      | 申込み                                 |
|-------------|-------------------------------|------|---------------------------|-------------------------------------|
| 入門C         | 2016/1/17(日)<br>9:30-17:00    | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 若山美知子※<br>Tel & Fax<br>03-5802-3844 |
| サダナ I       | 2/11(木)17:30-<br>2/14(日)16:00 | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                  |
| フォロー<br>アップ | 2/28(日)<br>9:30-17:00         | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                  |
| サダナ II      | 3/17(木)17:30-<br>3/21(月)16:00 | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                  |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

- ◆サダナ I (入門A、B、C)  
体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。
- ◆サダナ II  
Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。
- ◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。
- ◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月 30日(月) ～ 6月 7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

|   | 日時               | テーマ              | 講師          |
|---|------------------|------------------|-------------|
| 1 | 5月16日(土)～17日(日)  | 網を捨てて従う          | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 9月12日(土)～13日(日)  | 人里離れたところに行く      | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月21日(土)～22日(日) | あなたがたがパンを与えなさい   | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月13日(土)～14日(日)  | イエスよ、私を忘れないでください | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

イエスよ、私を忘れないでください

2015年度 第4回 召命黙想会

日時： 2016年2月13日 (土) 15:00 ~

14日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年2月7日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

## 沈黙の内に神を求めて —観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

12月10日（木）『靈魂の城』第七の住居・第三章

アピラの聖テレジアの『靈魂の城』を読んだ後、一緒に沈黙の祈りに入ります。  
2016年の予定は、1月21日（木）『靈魂の城』の最後：第七の住居 第四章、  
イエズス。その後は、十字架の聖ヨハネの『靈の賛歌』を読む予定です。  
3月17日、5月26日、7月21日、9月22日、11月17日、12月15日。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

### <<特別黙想会>>

日時：12月5日（土）5時受付～6日（日）午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「イエスの聖テレジアとともに祈る」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。





# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡資雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



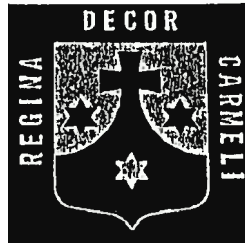
### 編集後記

私は、役職上、あちこち飛び回ることが多く、旅がらすとなっている。電車に乗ると、最近気になるのは、若い女性のお化粧である。お化粧そのものではなく、お化粧の行為である。目の前に座っている若い女性が突然バッグからお化粧道具を取り出し、せっせとお化粧を始める。お年寄りの方は、もう効果がないとあきらめているのか、あまり見ない。

欧米では、人前でお化粧をすることは、はしたないという以上に、危険である。なぜなら、それは売春婦のサインとなっているからである。客を探していることを伝えているのである。日本の若い女性は、人前で女であることをアピールしているのか、単純に美しくありたいからそうしているのか、何もすることがなく暇つぶしにやっているのか、よく分からないが、やめた方がよいと思われる。

「お化粧や身だしなみを整えるのは、家で！」と声を大にして叫びたい。外出時は、隠れるようにしてお化粧を整えていた、慎ましい日本の女性は、どこに行ったのか。

(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日 **12月22日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1 階  
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171